opusdei.org

ハビエル・エチェバ リーアの生涯

ビエル・エチェバリア司教 (1932年マドリッド〜2016 年ローマ)

2017/02/10

ハビエル・エチェバリア司教はオプス・デイの2代目属人区長で、1994年に福者アルバロ・デル・ポルティリョの後継者でした。

1932年6月14日、マドリードで生まれました。8人兄弟の末子でした。 サン・セバンティアン市のマリアニ スト会の学校とマドリッドのマリス ト会の学校を通いました。

1948年に学生寮でオプス・デイの若者を知り合った。当年の9月8日に日常生活の中に聖性を求める神の召し出しを感じ、オプス・デイに加わりました。

法学および教会法の博士号を取得しています。マドリッド大学で初めて、ローマで続けました。(1953年に教皇庁立聖トマス大学で教会法博士号、1955年に教皇庁立聖トマス大学で法学博士号)。

1955年8月7日、司祭に叙階されました。聖ホセマリア・エスクリバーの忠実な協力者として、1953年から聖ホセマリアの帰天する1975年まで秘書を務めました。

1975年、アルバロ・デル・ポル ティーリョ神父が聖ホセマリアの後 継者に選出されてから、事務局長に 任命され、1982年、オプス・デイが 属人区として設立されたことによ り、属人区長総代理となりました。

1994年4月20日、オプス・デイの属人区長として選出され、さらにヨハネ・パウロ2世教皇により認証を受けたエチェバリーア神父は、1995年1月6日、聖ペトロ大聖堂で同教皇より司教に叙階されました。

カテケーシスの旅や司牧活動には、 よく取り上げた課題は、十字架上の イエスへの愛、兄弟愛、他人を使え る事、恵みと神のことばの重要さ、 家族生活、教皇との一致などでし た。ちょうど、最後の手紙には、11 月7日の教皇フランシスコの謁見を 感謝して、教皇様とその意向のため の祈りをいつものように願いまし た。

数多くの司牧的書簡を書き、「Memoria del beato Josemaría (福者ホセマリアの思い出)」、「Itinerarios de vida cristiana (キリスト者の信仰の歩み)」、「Para servir a la Iglesia (教会に仕えるために)」、「Getsemaní(ゲッセマネ)」、「Eucaristía y vida cristiana(ご聖体と信仰生活)」、「Vivir la Santa Misa(ミサ聖祭を生きる)」などの霊的著書をも書きました。

聖座の列聖省審議委員と最高裁判所に属しました。2001年、2005年と2012年のシノドス(通常総会)、アメリカ・シノドス(1997年)とヨーロッパ・シノドス(1999年)に参加しました。

2016年12月12日、ローマで呼吸不全 により帰天しました。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sheng-ya-10/(2025/12/10)